

新発田市 令和4年度 第4回定例記者会見

1 日 時 令和4年6月30日(木)午前11時～

2 場 所 ヨリネスしばた 501、502 会議室

3 内 容

【市長発表項目】

- 食とみどりの新発田っ子 贈呈式
- 東豊コミュニティ防災センターオープン
- 「10代の居場所カフェ」利用者4千人突破

【その他】

- 夏季企画展「古文書で読み解く徳川将軍と溝口家」
- 健康づくりの「絵と標語」大募集
- 山形交響楽団 新発田公演
- うたびと・ジョイントコンサート

あいさつ

- 27 日の大雨で、あわやというようなところまでいきましたけれども、大きな被害がなかったという意味では大変安堵しています。
- 市民の皆さん方からたくさん電話を頂戴いたしました。避難指示を出しましたので、今すぐ避難しなければならないのかということだと思いますが、安心メールを読んでいただくと、避難指示を出した地域、あるいはどのような状況で出したかということがわかります。
- せっかくの機会ですから、情報提供としてお知らせしますけれども、大雨警報、洪水警報というのは、気象庁が出します。この警報が出されると、「レベル 3」というふうに認知します。
- 「レベル 3」になると、担当する部署が警戒態勢に入ります。これは避難指示とかではなく、どちらかといえば、高齢者の方、あるいは障がいを持っている方が、準備をしていただくレベルになります。今回は大雨警報、洪水警報が出された。その次に、土砂災害警戒情報が出されました。これは気象庁と県が発出しますが、必然的に「レベル 4」になります。
- 「レベル 4」を出された市町村は、警戒本部を立ち上げて、土砂災害の指定を受けている地域、区町内に避難指示を出すところということになっています。山や土砂を背にしている住宅の方に土砂警戒情報が発出しましたので、避難指示を出したということです。
- 新発田市の下水路は大体雨量 40 ミリに対応できていますので、33 ミリの雨水であれば、十分対応できたのですが、27 日は、雨というよりは雷の方が大変悪さをしまして、排水機場が 3 つ、雷でストップしました。2 つはすぐ復旧できたのですが、1 機が少し時間がかかったので道路の冠水、床下浸水で一部の方にご迷惑がかかったということです。
- ただ休み休みの雨でしたので、それほど大きい災害は出ないと思ったのですが、26 日の夜半から 27 日の午後まで、時間的には長く、排水機場が雷によってストップしたあたりで、道路の冠水等があったということでもあります。おかげさまで大事に至らなかったということでもあります。しっかり市民の命、あるいは財産を守ることが行政の第一義ですので、しっかり

反省し、そこから学んで、次に備えていきたいと思っています。

それでは、会見項目を説明します。

最初に、食とみどりの新発田っ子贈呈式について

- 市内の片山食品株式会社は、2022年8月20日で創立60周年を迎えます。創立60周年記念事業として、地元新発田への感謝、食を通して地域の発展に貢献したいという思いから、市内の小学生および小学校へ木べらと食に関する書籍が寄贈されます。
- オリジナルの木べらは、家庭で食事を作る機会を提供し、子どもたちが豊かな食の世界に関心を持つことを目的としております。
- 食に関する書籍は、未来をつくる子どもたちが食の大切さを知り、豊かな心を育むきっかけとなることを目的にしています。
- 木べらと書籍の贈呈式は、7月4日月曜日に、豊浦庁舎の市教育委員会で行われます。現在、新型コロナウイルス感染症防止のため、調理実習を中止している学校が多くありますので、この木べらは、お子さんが家庭で調理に挑戦する良いきっかけになると考えています。書籍共々、子どもたちの生きる力を育む当市独自の食育プラン「食とみどりの新発田っ子プラン」推進のため、活用したいと考えています。

次に、東豊コミュニティ防災センターオープンについて

- 令和元年度から建設してきました当市初で、県内でも先進的な防災機能を持たせたコミュニティセンターがオープンします。
- 他のコミュニティセンターと同様、地域活動拠点機能に合わせ、災害時には一時的な避難施設としての機能を持っており、単なる避難スペースだけでなく、屋外には防災倉庫やマンホールトイレ、停電時の非常用発電機を整備しており、災害時に指定避難所までたどり着けない、いわゆる

る避難困難者の解消が期待できます。

- 施設の管理は、東豊地区の 7 自治会で構成する「東豊コミュニティ防災センター管理運営委員会」が指定管理者となり、運営します。
- 東豊地区は、新発田駅の東側に位置しており、約 1 万人が居住し、地域行事だけでなく、自主防災活動にも精力的に取り組む地域です。今後、指定管理者と連携しながら、防災に関する勉強会や防災訓練など、この施設を新たな拠点とした地域協働による様々な事業を実施し、防災に強い地域作りを進めていきたいと考えています。
- 7 月 1 日金曜日に指定管理者主催の開所式が開催され、新発田相撲甚句会によるアトラクションなど、市内団体も協力して、オープン初日に花を添えていただく予定です。

最後に、10 代の居場所カフェ利用者 4000 人突破について

- 「10 代の居場所カフェ」は、平成 30 年 7 月 22 日にオープンし、7 月で 5 年目を迎えます。この間、小学生から高校生まで多くの方に利用いただき、5 月末現在、利用者が延べ 4250 人になりました。
- 週 2 回のカフェ開催日は、毎回利用しているリピーターもいると聞いています。友人同士でのお喋り、学習、ゲームなど、利用の仕方は様々ですが、楽しく過ごしているようであります。開設の目的である子どもや若者たちが気軽に訪れ、思い思いに過ごすことのできるスペースの提供が実現できているのだと思っています。
- 元教員の相談員や利用者と比較的年齢の近い大学生のボランティアが見守りや話し相手などの対応をすることで、学校や家庭では言えない悩みや、困りごとの相談ができる機会に繋がっています。実際に相談を受け、良い方向に向かったケースもあると聞いています。
- コロナ禍で利用者が減っていましたが、落ち着けば、徐々に利用者が増えてくると思います。少し息抜きをしてみたい、困り事を相談したいと

いうときには、居場所カフェに行ってみようと思ってもらえるように、また癒しの場となるように、これからも引き続き、相談員等による見守りを受けながら、状況に応じて関係機関等と連携をし、子どもたちのケアに努めていきたいと思っています。

本日、新発田市からのお知らせする情報は以上であります。
一つでも多く取り上げていただきたいと思います。

「市長からの情報」について

- 今年の 11 月に市長の任期がまいります。3 月市議会定例会で議会から「4 期目への挑戦をどうするのか」という質問をいただいたところでありましたが、あの当時、新潟県、あるいは新発田市でもコロナが非常に高い感染者数を示しておりました。市長の改選までに半年以上あったということから、まずは市民の命が大切ですので、コロナの収束に全力を挙げさせてほしいということで、「まだ 4 期目についての考え方については、まとまっていません」というお答えをしたところです。
- まだまだ油断できる状況だとは思っていませんけれども、県内、あるいは新発田市も感染者数が非常に低い状況に落ち着きを見せ始めています。
- 私は、ウィズコロナ、そしてポストコロナを目指すということで、今年の一文字は「刻」にし、1 年間はそれを胸に秘めてまち作りを進めるという意味で市民の皆さんに問いかけたわけです。
- そういう意味で、しっかりとコロナ対策をしながら、次の 4 期目について後援会の皆さんと相談をさせていただきました。後援会の皆さん方には、ちょっと前に役員会の方からは出馬要請の決議をいただいたところでした。まだ完全に私自身がコロナ対策にエネルギーを傾けていましたので、決定しませんでしたけれども、ここにきて、後援会の役員の方の三役の皆さんと相談をさせていただき、皆さん方からも 4 選に出馬をしたらどうだという声をいただきました。

- もう一つ心配だったのが健康のことです。ここが一番気がかりでありましたので、人間ドックに行き、また主治医に相談をいたしまして、心配ないとお墨付きをいただきましたので、ここで 4 期目に当たっては、出馬したいということで決意をしたところです。
- 市長になるときに住みよいまち日本一そして健康田園文化都市新発田を作ろうとスローガンを立ち上げて、この 12 年間やらせていただきました。今も、そして 4 期目に当たっても、このスローガンを変える気はありません。
- 住む人たちにとって暮らしやすい、住みよいことが一番大事であって、新発田は企業城下町でもありませんし、何か尖ったようなまちを目指すべきではなく、暮らしやすさ、住みやすさ、このことが一番の大きな街の根底にあるというのは今も変わりません。
- 健康田園文化都市、「健康」とは命です。命を大切にすまちなであります。「田園」、これは新発田の基幹産業が農業だということです。まず食べていけるまちなにしたいということです。「文化」、これは教育と言ってもいいのかもしれませんが。未来に投資をする。
- 命を大切にし、そして食べていけ、なおかつ未来に投資をする、そんな新発田を作っていこうということで 12 年間自分なりに精一杯やってきたつもりです。そしてこの旗は下ろすことなく、4 期目に当たってもしっかりとやっていきたいと思っています。
- 12 年間やっていますので、自分がやってきた実績等をお話すればいいのかもしれませんが、そういうタイプの政治家ではありませんので、ご質問があればお答えいたします。言えることはここに来て、人口減少というのが全国の 1760 の市町村にとっては命題中の命題でありますけれども、社会減は、一定の歯止めがかかったなということです。
- 人口減少は振り子の法則というのがあって、少なくとも 20 年ぐらいは人口が増えるということはありません。今の 1.30 が国の出生率だそうですが、これが 2.0 になったとしても人口は増えないわけです。その子どもたちが 20 年後、生産人口になって、そのときにまた 2.0 が確保できたときに初めて日本の人口が増えるということですから、一旦、減り

始めた人口というのはそう簡単ではないわけです。

○新発田市が県内で 5 番目の人口規模だったのが、4 番目になったということで、0 歳から 14 歳の転入が増えているということです。つまり、「選ばれるまち」になったということです。そういう意味では大変ありがたいということと、3 期目の 4 年間に命を大切にすることで健康長寿も謳わせていただきました。介護認定率が国、県から見ても非常に低くなった。その意味では健康長寿が少しずつ自然減にも影響を与えているようなことから、県内での 4 番目の人口になったのではないかと思います。

○この辺をしっかりと踏まえながら、秋に向けて「まちづくり実行プラン」俗にいうマニフェストですけれども、後援会のスタッフの皆さん方としっかりと練って、ポストコロナに向かって堂々と歩けるような新発田を作っていきたいと決意をしたところです。

○これから市民の皆さん方に、4 期目の考え方あるいは決意等をお話をして、ぜひ市民の皆さん方からまた選んでいただけるよう、しっかりと戦いの駒を進めていきたいと考えています。

私からは以上です。よろしくお願いいたします。